

〔解説〕 地域における子どもの教育

生活の維持や文化の継承など、地域の持続を考えたとき、子どもは、重要な存在であることは言うまでもない。したがって、地域における子どもの教育に関する取組みについて把握することは、地域を検討する手がかりとなろう。

さて、中野氏の講義は、鹿児島県宇検村における教育委員会の取組みを紹介したものであった。しかし、講義は、時間の関係上、概要を示すものであったから、宇検村における子どもの教育を考えるためには、語られていないことにも目を向けることが重要であるといえる。

第一に、地域における子どもの教育について考えるならば、学校について理解することが求められよう。地域実習においても、宇検村の学校の実態を体験的に把握することが、実習内容の一つとして位置づけられており、中野氏の講義でも、まず学校の概要が説明されている。

講義をふまえて、学校についてさらに理解するためには、学校の教育活動を知ることはもちろんであるが、学校と住民の関わりについて検討することもあり意義であるといえる。地域と学校をめぐっては、国の政策として、「開かれた学校」や「地域とともにある学校」といったことが謳われてきており、学校評議員や学校運営協議会といった制度が設けられてきた。

宇検村においても、学校評議員制度は導入されているようである。教員は、当然、学校については熟知しているであろう。しかし、学校の位置する地域や子どもについては、住民の方が詳しいことも珍しくないであろう。島嶼においては、尚更そうであろうと考えられる。宇検村において、学校評議員制度が、どのように機能しているかは、興味深い点である。

さらにいえば、学校、とりわけ、小中学校は、しばしば指摘されるように、従来、地域の中心的な場でもあったと捉えられる。住民が、講師

やボランティアなどで学校教育を支えるだけでなく、学校行事に参加したり、学校が地域の活動の場となったりすることも行われてきたはずである。学校と住民の関わりを把握することは、地域を理解するためには欠かせないことであろう。

第二に、地域における子どもの教育を理解するには、学校で行われる教育以外にも目を向けることが必要であるといえよう。そもそも、子どもの教育について、学校が全てを担うことは考えられない。

学校外での教育の機会を考えるうえでは、講義録では語られていないが、地域の団体や施設について、把握しておくことも必要であろう。団体については、宇検村では、青年団が結成されているという。青年団では、地域で開催される祭りなどの行事を支えるなどの活動が行われていると考えられるが、このような団体が存在することは、子どもにどのような変化をもたらすであろうか。

また、施設については、まず、公民館がいくつも設置されている。さらに、ホールや図書室、歴史民俗資料展示室などを備えた生涯学習センターもあるようだ。このような施設は、子どもとどのような関わりがあるだろうか。

おそらく、学生の多くにとって、宇検村の子どもをめぐる環境は、これまでそれぞれが体験的に獲得してきた認識と相違するものであろう。少子高齢化がすすむなかで、宇検村のような地域について知る機会を得ることは、学生が、将来、地域の活動に参画したり、地域の活動を支援したりする立場になったとき、有用なものとなるにちがいない。

（仲村 拓真）